



田口常務理事（右）から目録を受け取る門脇市長（左）。

J A秋田おばこが寄付金贈呈

2月6日、J A秋田おばこ（秋田おばこ農業協同組合）より災害援助に役立ててもらいたいと仙北市に寄付金7万3500円が贈られました。同組合の西木宮農センターでは、毎年、食育教育事業として、西木町の農家の佐藤一也さんよりほ場をお借りし、西明寺小学校の児童がネギの栽培から収穫・販売までの農業体験をしています。この度の寄付金は、昨年の仙北市産業祭で6年生がネギの販売を行った際の売上金です。田口耕成常務理事は「災害援助に有効に使っていただきたい。将来、子どもたちが農業体験を通じて学んだことを活かして地域を発展させていきたい。これからも農業体験に限らず食育事業を提案していきたい」と話しました。



十五日会の平岡三郎会長（左）と北都銀行田沢湖支店の伊藤高洋支店長（右）。

十五日会より 図書カード寄贈

1月30日、十五日会（平岡三郎会長）から田沢湖図書館に2万円分の図書カードが寄贈されました。旧田沢湖町当時から善意は続けられており、児童の読書環境の充実のため、図書館によい児童書を備えたくさんの子どもたちに読んでほしいという願いが込められています。田沢湖図書館では、今年も楽しい絵本や読み物を購入させていただきます。ぜひ、読んでみてください。

高齢者叙勲 おめでとうございます



布谷政男さん

旭日単光章

元西木村議会議員の布谷政男さん（88歳・西木町松木内）が地方自治功勞により、旭日単光章を受章されました。布谷さんは、昭和48年9月西木村議会議員に初当選し、平成元年9月までの長きにわたり、地域発展のためにご尽力されました。

2月12日、卓越した技能を有する技能者を表彰する仙北市技能功勞者表彰が行われました。受賞者は、各業界団体などが個人を推薦し、大曲仙北職業訓練協会や仙北市商工会、秋田県仙北建設業協会などで構成する選考委員会が審査し決定しました。

右から、佐藤隆さん、藤井勉さん、渡辺勇悦さん、辻谷栄治さん、石橋政文さん、新山高さん、門脇市長。



受賞者の主な功績

◆新山高さん／分野：建築板金

昭和29年佐野板金工業所に入社し、在来工法の技術を習得後独立。昭和36年新山板金工業所を設立。60年以上の経験に培われた確かな技術は、業界内からも高く評価されている。平成3年には秋田県技能士会連合会による一級技能士取得。これまで5人の弟子を育てると共に、県内技能競技大会への参加や審査員としても参加するなど後進の技術指導に意欲的に取り組んでいる。長年にわたり秋田県板金工業組合仙北支部長を務めるなど、業界団体の発展に大きく貢献している。

◆石橋政文さん／分野：電気工事

昭和44年大友電機製作所に入社。田中電気工業を経て、屋内配線工事、引込線委託工事に従事。昭和48年石橋電機店を設立。一般住宅配線工事設計施工、消防設備工事、高圧自家用設備工事の経験に培われた確かな技術は、他の技術者の模範として業界内から高く評価されている。平成5年には一級電気工事施工管理技士を取得。次男を含め、後進の技能向上に努めている。長年にわたり大曲仙北電気工事協同組合理事、秋田県電気工事工業組合監事を務めるなど、業界団体の発展に大きく貢献している。

◆辻谷栄治さん／分野：建築造園

昭和41年菅原組に入社、土木工法の技術を習得。昭和51年家業の辻谷組に入社。土木施工技術はもとより造園施工に関して、国指定天然記念物ツダレザクラや国指定名勝松木内川堤のソメイヨシノの土壤改良や肥培管理に携わり、その確かな技術は高く評価されている。平成19年には一級造園技能士を取得し、自らの後継者を含め造園関係技術者の技術指導に取り組んできている。長年にわたり角館町建設業協会理事を務めるなど、業界団体の発展に大きく貢献している。

◆渡辺勇悦さん／分野：量製造

昭和46年家業の渡辺量店、父渡辺勇一郎氏に師事。平成4年に量製作一級技能検定資格を取得。40年を超える豊かな経験に培われた技術は、他の技術者の模範として業界内から高い評価を得ている。平成26年には厚生労働省が推進する「ものづくりマイスター」に認定。学校などで子どもたちへ量づくりを通して、ものづくりに関心を持たせる様々な事業に積極的に取り組んでいる。長年にわたり大曲仙北量業組合副組合長や秋田県量業組合理事を務めるなど、業界団体の発展に大きく貢献している。

◆藤井勉さん／分野：建築大工

昭和44年三浦弥惣治氏に師事し、在来工法の技術を習得後独立。平成5年藤井工務店を設立し、平成27年に株式会社化。一般住宅はもとより社寺建築を主に営み、手掛けた数は100か寺以上。豊かな経験に培われた技術は、後進の模範として業界内で高い評価を得ている。昭和60年二級建築士資格を取得。これまで6人の弟子を育てると共に技能五輪全国大会に出場させ、2度の準優勝に導いている。長年にわたり神代建設技能組合長を務め、業界団体の発展に大きく貢献している。

◆佐藤隆さん／分野：建設重機

昭和58年西宮組入社。土木工事施工技術、建設重機オペレーター技術を習得。地元砂防工事や林道開設工事などでは卓越した技術と豊かな経験をもとに安全に配慮した施工技術は、現場の段取りから完成まで必要な存在として業界内でも高い評価を得ている。平成7年に二級建設機械施工技士の資格を取得。穏やかな人柄もあり、若手後輩の技術教育育成にも尽力している。入社35年、現場一筋に培った技術は地域活動にも発揮されて、会社・業界団体発展はもとより地域発展にも大きく貢献している。

仙北建設業協会建友会がタブレット端末寄贈

2月6日、秋田県仙北建設業協会建友会から仙北市の特別支援学級にタブレット端末2台が寄贈されました。建友会では、地元の小・中学校に貢献したいとの考えから、一昨年からタブレット端末を特別支援学級に寄贈しています。仙北市では、タブレット端末を活用することで、「自分でできる」「一人でできる」経験を積み重ね、障がいのある児童生徒の自立と社会参加に役立てたいと考えています。



秋田県仙北建設業協会建友会の小原貴会長（左）と熊谷教育長（右）。

2月5日から17日まで「第8回仙北市総合美術展」が角館町平福記念美術館で開催されました。美術展には、市内で芸術文化活動をしている151人と5団体の方々から、写真や書など168点が出品され、訪れた人たちを魅了しました。初日にはオープニングセレモニーが開催され、主催者である仙北市総合美術展実行委員会の橋本敦子実行委員長が「皆さんの心身の刺激・癒やし・肥やしになると信じています。本展が仙北市の芸術文化の発展につながれば幸いです」とあいさつしました。



期間中、多くの来館者で賑わいを見せました。

台湾・高雄国際マラソン



3人とも完走しました！左から、兜森輝美さん、鈴木裕子さん、草弾大助さん。今後の台湾高雄市との友好交流に期待します。

2月17日、台湾で高雄国際マラソンが開催され、たざわ湖マラソン参加者のうち、仙北市民で上位完走者の中から、仙北市の派遣ランナーとして3人が参加しました。

今回は2回目の派遣で、フルマラソンに兜森輝美さんと鈴木裕子さん、ウルトラハーフマラソン（25km）に草弾大助さんが出場し、無事完走しました。出場ランナーからは「暖かい気候の中、台湾の大勢の人たちに大きな声援をいただき走ることができた」「国際大会に出場できてよかった」など、喜びの声が聞かれました。

今年の高雄国際マラソンは第10回目を迎えたことなどから、高雄市政府からの提案で、仙北市と高雄市政府との間で、戸澤教育部長が立ち会いのもと、お互いのマラソン大会の友好交流を促進する旨の覚書を締結しました。

第1回 仙北地域クラウド交流会



2月6日、起業家を応援し、地域の活性化につなげる「第1回仙北地域クラウド交流会」が角館交流センターで開催されました。地域クラウド交流会は、起業して間もない起業家が、自身の事業について3分間プレゼンテーションを行い、参加者が1番応援したい方に1票を投票して、得票数に応じて参加費の一部を事業資金として受け取ることができる交流型のリアルファンディングです。全国では100回を超えて開催されていますが、秋田県では初めての開催となりました。交流会の前には、グループウェアの開発・販売を行うサイボウズ株式会社の野水克也さんを講師に迎え「ワークスタイルの変革こそが、起業家・中小企業にとって唯一の生存戦略」と題して、自社の多様な働き方などのお話をいただきました。



【プレゼンター】

- ① 合同会社秋田どんぐり村 浅利久美子さん
- ② なぎの木整骨院 草弾友彦さん
- ③ Cafe モロビ 吉田紀子さん
- ④ 思い出工房 小田島広仁さん
- ⑤ NPO 法人 Tiny Fields 尾崎美由紀さん

交流会は、参加者110人が気軽に話し合う時間もあり、企業や金融機関、行政関係者が情報を交換しながらネットワークを広げたほか、仙北市の起業家5人のプレゼンテーションに耳を傾け、応援したい起業家へ投票しました。投票の結果、着地型旅行商品を販売する「思い出工房」の小田島広仁さんが最多得票数を獲得しました。小田島さんは「自分の仕事を知ってもらいたい」と思い参加した。1番得票数が多くて驚いた。仙北市にたくさん人が来てもらいたくて地元のおじいちゃん、おばあちゃんが先生になってもらう体験型の商品を作っている。

高齢化が進む中、高齢者が活躍でき、楽しむことができる場所を作ってほしい」と話しました。

■クラウドファンディング

「こんなイベントを開催したい」「こんな商品をつくりたい」などのプロジェクトを考えている方が、インターネットを通じて多数の人に資金提供を呼びかけ、趣旨に賛同した人から資金を集める方法。

第14回 仙北市民スキー大会

2月11日、「第14回仙北市民スキー大会」が、たざわ湖スキー場で開催されました。大会成績は次のとおりです。

- 各種目1位選手（敬称略）
- 【アルペン】
- ▼小学1年男子大回転B 門脇祥真 ▼同女子 畠山芽依 ▼小学2年男子大回転B 中村 凌磨 ▼同女子 門脇恋珀 ▼小学3年男子 大回転B 横山蓮 ▼同女子 伊藤愛莉 ▼小学4年男子大回転B 佐藤文 ▼同女子大回転A 高橋りのあ ▼小学5年男子大回転A 藤川桂太 ▼同女子 畠山紗依 ▼小学6年 男子大回転A 伊藤太翔 ▼同女子 草野悠那 ▼中学男子大回転A 石塚康平 ▼同女子 門脇結那 ▼一般女子B 田村生子 ▼一般男子B 藤川悟志 ▼一般男子C 伊藤雅人
- 【クロスカントリー】
- ▼小学1年男子1.2K 八柳璃空 ▼小学2年 女子1.2K 荒澤凜桜 ▼同男子 清水健真 ▼小学3年男子2K 齋藤航志 ▼小学4年男子2K 清水快真 ▼小学5年女子2K 木元 陽南美 ▼小学6年女子2K 佐々木葉奈 ▼同男子 佐藤駿太 ▼一般男子A 2K 千葉 一樹 ▼一般男子C 2K 猪本吉成 ▼中学 男子4K 鈴木勇太郎 ▼リレーファミリー クロカン愛好会A（大石（海）・大石（柊）・佐々木）

雪国の暮らしを体験

青山学院大学の学生が交流活動



青山学院大学の皆さんと記念撮影。2月15日に、田沢湖庁舎で歓迎セレモニーが開催されました。

平成28年度に包括連携協定を締結したことが縁で、今年も青山学院大学から14人（学生12人・職員2人）が、2月14日から4日間の日程で仙北市を訪れました。学生たちは期間中、農家民宿などに宿泊しながら、市内視察研修や田沢湖高原雪まつりの雪像づくり、高齢者宅の除雪ボランティアなどを通して、交流活動を行いました。

15日には、田沢湖庁舎で歓迎セレモニーが行われ、門脇市長が仙北市の現状や抱える課題などについて講話しました。学生からは、初めて仙北市を知ったことや、主な産業、田沢湖マラソンなどに関する質問もあり、活発な意見交換が行われました。

ボランティアとして体験した除雪作業では、仙北市のような積雪を初めて見る学生たちはばかりで、雪国の生活の一端を経験しながら、冬の暮らしの大変さを実感しているようでした。



門脇市長の方言を交えた講話を熱心に聞き入る学生の皆さん。